

刊夕日九月九



定額一圓五錢... 発行所 常盤町日新報社

成辰役の回顧

平陽 老人

六、小名濱方面の戦... 此の日薩州大村の兵は泉を發し野田村に進み、大村兵は河畔に迫り、仙臺兵と戦ひ、薩州兵は海岸を回り川を渡りて米澤兵を横撃す

米澤兵應戦し相馬兵之を援け激戦數刻砲焰天を蔽ふ、東軍少しく退き、西軍之を追撃せしかば、富岡山に匿れたる彰義隊一齊に立ちて之を亂射す、西軍亦反戦す

林昌之助其の藩兵(上總請西藩)を率ゐて長崎丸に搭じ小名濱に入り、薩州大村の隊旗を望みて連りに砲撃す、然れども兩軍交錯して彼我を辯ずること能はざりしかば、長崎丸は東軍を傷けることを恐れ砲撃を止

ノート

火鉢を買ふには、長火鉢より共り瀬戸火鉢の方が安價で而も暖房用には炭が經濟。

東軍徐々として退くや西兵尙追撃す、中の作の東兵銃を發して之を撃ち、西兵遂に退く、此の時湯長谷方面の砲戦頗る猛烈を極む七、白河矢野方面の動き

[六]

棚倉城已に陥り、西軍益々加はる、東軍我が總督西郷頼母(會津)白河城を抜か

【朝】みそ汁―ねぎ
【晝】つくし煮―豚肉 玉ねぎ 卵引
【晚】わん―いわしつみ入 大根(すまし仕立)

んと欲し、六月二十九日列藩諸將を上小屋の本營に會して戦略を議す、仙臺の兵は三春藩の密かに西軍に降れるを聞き、其の背後を絶たれんことを恐れ、火を矢吹に放ち蒼惶として須賀川に退く。

此の日原田對馬(會津)は大平口に在り、諸將を會して軍議を開く、皆曰く、棚倉城陥り平城も亦危急に迫り、寧ろ此際急に兵を進めて白河城を抜くべしと即ち之を上小屋の本營に報す

常盤文藝

舖道の哲學 若花・シモムラ 飾窓に映つた朝並木

露にぬれて 愛人の草笛のかすかなるは霧の街、水彩の街

石蕨に咲いた サボテンの刺の鋭く 二科展の裸婦は おもひ出に蒼くねむる

街角― 愛人のたよやかな姿態をみれば プラタナスの葉だつて ゆれもしやうさ

Table with 4 columns: 地相, 人事, 家相, 定数. Includes a hexagram diagram and various numerical values.

九月十一日甲辰五黃禍厄危【二】離別死別の悲話を聞く凶日なれば水火の難にも注意南北凶【一】病氣怪俄に注意して猛進する勿れ未申丑寅か凶【三】金談縁談の喜び事あるも約束事は明日が吉東西凶【四】金談上目上と意見衝突を引起す日なれば不平を起さず明日が吉【五】黄進て大損害を蒙る凶日なれば現狀維持して病氣怪俄に注意【六】縁談金談營業上大利を得る吉日なるも總て事に明日が吉【七】赤望事達せんとして大損害を生ずる事あれば猛進を止め家内圓滿か吉【八】病氣怪俄紛失難に注意して退き守に吉【九】我身屯底に陥る凶日なれば水火の難に注意して明日を待つが吉

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會 平町町六九

婦人科 花柳病科 入院隨意

井坂醫院

平町町 電話五五九番

恐ろしい疫痢の流行期!!!

毎年六月始めより十月と申します。死亡率統計百人中六十五人以上として居ます。まづ豫防に経口免疫の北里研究所 造疫痢内服ワクチンを 價格 幼兒一人分三十錢 大人一人分五十錢 (文献進呈)

西村屋藥局

平町二丁目 電話三

咽喉專門

山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

開店披露

今般平町町田町「松月堂向」へ藥種商を開業致しました。各種藥品は勿論精々良品を選び親切を旨とし凡てに於て大勉強致しますから何卒多少に不拘御用命下さる様御願ひ致します。

阿部藥舖

平町町(松月堂向)



磐城セメント會社特約店 磐城平町五丁目 電話九番九九番 □良品廉賣に勝る商略なし □確實敏捷は 生命なり

お醤油は ヤマフル

醤油味噌 たりら 正宗 鯉節 食料品

山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部)醸造工場 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

一冊の代金で 御希望通りな

五冊の雑誌が 自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

郡内強風被害

落梨が六千八百卅餘圓

稲は海水浸入で二千圓

石城駐在米山農業技術員は去る五六兩日の強風による梨の落果及び稲田浸水等の被害調査をしたが梨は赤井村の四十町歩(三千八百十三圓)を最高として平窪十八町歩(千二百五十圓)好間二十五町歩(八百七十五圓)錦三十町歩(六百圓)下小川七町歩(二百四十五圓)等合計六千八百三十三圓に達し稲の被害は錦村字中田地内で海水浸入八町歩(二千五百四十八圓)に及んだと

平附近學童競技フラン

石城郡下小學校及び第三區兒童競技委員

會は本日午後一時より平第二小學校に於て開き左の如きフランを決定したが尙來る十月十四日には郡下の代表委員會を開くと

- △十月一日第三區兒童競技會(平第一校庭)
- △同二十九日郡下兒童競技會(磐中グラウンド)
- △十一月五日東部聯合教育會代議員會(平第一校)
- △同十二日同總會(同)
- △同十九日濱三郡兒童ドッチボール大會(平第一校庭)
- △五月三日濱三郡教員籃球大會(平第一第二校庭)
- △九日郡下兒童唱歌會(平第三講堂)

兩雄者試合

古河で庭球

過般縣下中等學校庭球大會及び北日本大會に優勝した平商チームと仙臺鐵山監督局主催菅内鐵山對抗庭球大會に優勝した古河炭礦チーム

青年聯合體育係員

既報第十回石城郡聯合青年團體育大會は愈々明日午前

滿鮮から一筆

釜山公會堂にて伊東一

滿洲もこゝも同じ事だ、働く處に別に豫備知識と手腕が金が無くては駄目な事だ、羅南で成鏡北道の物産陳列所を見た、別に變つた物産は無かつた、恐らく日本中變つた

日本の軍備の事と問島通る新京行きの鐵道の事だ、元山の港も風景はよ、山から京城へ歸り大邱から釜山へ来た何れも朝鮮の大都市は一巡した今朝鮮を立つに當つて滿洲の日本人を顧れば其處に努力の結晶が見られる、近代文明の都市の賑ひ

大森勇 三森虎雄 松本忠人(庶務會計) 松本忠人 紺野勝治 鈴木康(受付) 紺野勝治 鈴木喜三郎 後藤佳仙(來賓) 齋藤榮一 會我直治 鈴木位忠 菊地正一 鈴木佐四郎 柴田德二(會場整理) 山崎宣吉 石田謙藏(救護) 大森勇(競技審判長) 下山田尙方(指揮) 芝崎新吉(決勝審判) 大橋秀冬 下平照 佐藤信義 井上佳都美 木田谷平 小林正毅(跳投審判) 永島磯惣太 大淵彌次郎 石田伸六郎

佐藤隆丸(出發合圖) 田子泰作(計時) 渡邊恒夫 野木忠見 水竹仁 鈴木五郎(監察) 櫻井榮次 横田瀧藏 矢代常好 海野磐男 佐藤勝彌(召集) 瓜田壽 門馬猛(記録) 新家芳美 熊谷保高(通告) 上川恒平 吉田治藏(劍道審判長) 庄司政之(係員) 鈴木忠正 小野寛美(柔道審判長) 橋本芳太郎(係員) 高清水勇助 鈴木寅之丞(相撲審判長) 青天目源一郎(係員) 小菅榮之助

村を擧げて更生に邁進

大活躍の大浦村

石城郡大浦村は本年經濟更生村に指定されたので、村一一致更生に邁進中であるが去月中には農事實行組合を法人として産業組合の補助機關に改革し肥料共同購入の外紫雲英種八石四斗、菜種二斗を岐阜縣より購入した

滿洲事變の記念展出品

十八日仙臺第二師團に於て滿洲事變勃發二週年記念繪畫展覽會が開催されるので本日左記二十八名の作品を出品した

- (二年) 梨田起雄 赤塚兼松 助川浩 山名光男 新妻光次 鯨岡孝 堀竹雄 北野正明 松田浩一 門馬杏一 鈴木輝雄(三年) 箱崎彰 北郷丈夫 野崎勇 川島正己 鈴木弘 鈴木謙司 鈴木節長 小林房治(四年) 高階次郎 柴田内面一 永山利男(五年) 志賀幸雄 廣澤榮太郎 小幡柱三 志賀守源一郎

巖谷先生!

川崎小鳥

葬儀に參列して

「極樂の乗物や是れ桐一葉」これが先生の辭世の句である、僕は俳句はよく解らないが、實に先生の明朗なそして酒脱な性格が溢れて居ると思ふ、多分先生は一寸旅行にでも出掛ける氣持で幽明處を變へなすつたのではなからうか、今頃先生は極樂で「ハハア、これは娑婆より餘程住みよいゾ」などと獨り北窓笑まされて居るかも知れない。

先生の御氣分に感應したか、どうも先生が亡くなられたといふ様な切實な感じが迫つて來ない、末だ生きて居られて、イツでもお眼にかゝれる様な氣持がする……

葬儀の日僕の乗つて行つたタクシーは式場青山會館の七八丁手前で止つて終つた、降りて見ると無数の自動車があふいて居る、其の中を縫ふ會葬者は蛇々長蛇の列を爲し、此の盛儀を見んものと奔めく群集の波に揉まれて幾臺かの電車は立往生! 臨時に出動した幾十人の交通巡査が聲を洩らして右往左往して居る實に悲しくも賑やかな盛況さに膽を冷した。

母磯子儀かねて病氣の處養生不相叶

九月七日午後一時逝去仕候に付乍略儀紙上を以て御通知に代へ此段謹告仕候

- 追て來る十一日午前九時より正午迄紺屋町自宅に於て神式を以て告別式執行途中葬列を廢し午後二時良善寺墓所に埋葬可仕候
- 九月八日
- 山部正勇 山崎與三郎 外親戚一同

問題のカバンは

平驛の便所から現る

無銭飲食の男が眞犯人

既報去る六日午後零時四十五分頃平驛待合室で、列車待合 せ中の東京市日本橋區通三丁目健腦丸本舗丹平商會外交員小山政行(三)所有の現金三百圓及び水戸川崎第百銀行支店振出し額面二百圓の小切手在中トランクを窃取した犯人に就いては平署で全力を擧げて内偵の結果

保生れ當時東京市下谷區入谷町三九七家具商加納庄治(三)が本朝九時犯行一切を自白し犯人と確定し同人の自白に基き平驛の共同便所内の便壺を捜査して處該カバンが現れ

本紙昨報 の湯本町裏町備中屋旅館で去る六日八圓餘の無銭飲食して捕れた新潟縣刈葉郡柏崎町字大久

其中には 現金や小切手がソツクリ在中した居た犯人加納は盗んで見たが附近の騒ぎが餘りに大きくなつたので一先づ便壺内に匿して置き何れ機を見て取りに来る積りであつたと

既報去る六日午後零時四十五分頃平驛待合室で、列車待合 せ中の東京市日本橋區通三丁目健腦丸本舗丹平商會外交員小山政行(三)所有の現金三百圓及び水戸川崎第百銀行支店振出し額面二百圓の小切手在中トランクを窃取した犯人に就いては平署で全力を擧げて内偵の結果

既報去る六日午後零時四十五分頃平驛待合室で、列車待合 せ中の東京市日本橋區通三丁目健腦丸本舗丹平商會外交員小山政行(三)所有の現金三百圓及び水戸川崎第百銀行支店振出し額面二百圓の小切手在中トランクを窃取した犯人に就いては平署で全力を擧げて内偵の結果

豊田検事長來平

平町有志が歓迎會

宮城控訴院検事長豊田多三郎氏は来る十二日午後十二時五十六分着にて福島地方裁判所後藤検事正と共に來平、平區裁判所を視察する

平署去月中の検舉件数は同署新撰組の活躍等の功に依り例年の夏枯れ期の型を破つて前年より二割の増加を來し總檢舉數二百五十四件人員百三十六名に及んだが

剣道要項

兒童に配布

既報今學期より剣道部を新設五年以上の希望兒童に課外指導を行ふ平第一小學校では本日左記の如く十項目に亘る要項を印刷配附した

平署去月中の検舉件数は同署新撰組の活躍等の功に依り例年の夏枯れ期の型を破つて前年より二割の増加を來し總檢舉數二百五十四件人員百三十六名に及んだが

農村更生座談

郡神谷村産業青年團では本

既報今學期より剣道部を新設五年以上の希望兒童に課外指導を行ふ平第一小學校では本日左記の如く十項目に亘る要項を印刷配附した

既報今學期より剣道部を新設五年以上の希望兒童に課外指導を行ふ平第一小學校では本日左記の如く十項目に亘る要項を印刷配附した

明日のラジオ

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 童話劇「アキヒ大郎」若草
- 後六、二五 傳説と史蹟を
- 探ねて(二十三)「小判の味増漬」終 宇野名左衛門
- 後七、三〇 講演「各國の經濟狀態」渡邊鐵藏博士
- 後八、〇〇 B.K.編成の夕
- 「新版から政とん」山口俊

雄その他

- 後八、四〇 義太夫「忠臣蔵判官館の段」竹本大隅
- 大夫 鶴道八
- 後九、三〇 時報 ニュー
- ス 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- 前九、一〇 榮養料理献立
- 「夕食、鮭のフライ」榮
- 養研究會

今晩も明日も北東の風晴曇半す

新撰組の活躍で 犯罪檢舉二割増

平署の夏枯期記録破り

平署去月中の検舉件数は同署新撰組の活躍等の功に依り例年の夏枯れ期の型を破つて前年より二割の増加を來し總檢舉數二百五十四件人員百三十六名に及んだが

山形縣東村山郡本庄村字一木杉生れ當時住所不定長沼富次(三)は去る四日泉村々會議員某氏方に忍入り銀側腕時計時價十五圓餘衣類等を窃取した外内郷湯本等で

村議方に 賊が忍入

内郷で逮捕

山形縣東村山郡本庄村字一木杉生れ當時住所不定長沼富次(三)は去る四日泉村々會議員某氏方に忍入り銀側腕時計時價十五圓餘衣類等を窃取した外内郷湯本等で

赤井組頭推薦

石城郡赤井村消防組では去る七日午後一時より同村第二小學校に於て幹部會を開き

赤井組頭推薦 石城郡赤井村消防組では去る七日午後一時より同村第二小學校に於て幹部會を開き

演習宿舍

小名濱で協議

石城郡小名濱町役場では来る廿七日より三日間同町方面で行はれる仙臺輕重二大隊の演習で参加將兵二百十

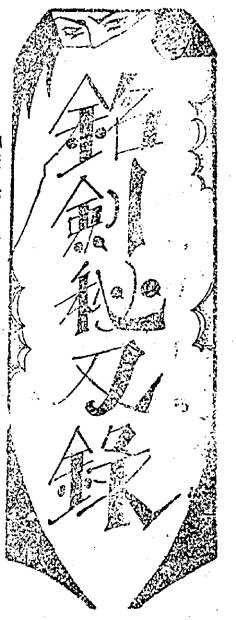
山部氏母堂計

平町縣社小嶽倉神社々掌山部正勇氏母堂礎子刀自は豫て病

立會の下に開廷されたが事實訊問の上拘留處分に附された

立會の下に開廷されたが事實訊問の上拘留處分に附された

立會の下に開廷されたが事實訊問の上拘留處分に附された



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演 山本英春畫

第三十六回 血に飢ゆる村正

我子に明かす大罪

源十郎の横死を直に組頭の勝平太へ通知を致す、一方は源十郎の妻のおみち、虫が知らずか夫が俄に大崎亥蕃殿方へ使ひを言ひ付かつて参つてから頻りに胸に痛みを覺え早く歸つて來れば、

受けて茲に線香華などを商なひ、細き煙を立てながら俣百太郎を守育てる心の内は如何ばかりでございませうか、扱て斯うなつて見ると敵を二人設けたやうなもの、只獨り胸を痛めて味氣なき月日を涙と共に送つて



上は慈悲で御目溢しがありました御城下を離れる事約一里ばかりの所にある巖空寺といふ寺へ夫の死骸は埋葬いたし、幸ひ巖空寺門前堤下に小さな家が空いて居りますのを借受け自分は佛門に入らざるまでもせめては朝夕墓へ詣でて夫の靈魂を慰めんと和尚の許

居ります、スルと組頭の勝平太は其後も月の内には二度三度づつ後家の所へ尋ねて参り其度毎に金子等を呉れるから愈々情の重なるだけにおみちも討ち兼ねて居ります、中に月日に關守なく俣百太郎が九歳になるまで別段にお話もございませぬ、武藝も仕込みたいが何分にも斯ういふ所に居りま

すから夫さへ心に任せませぬ、學問手習などは幸ひ巖空寺の和尚に可愛がられて少しづつ教はります武藝の師匠とする者が無い、それでも仲々氣性は勝れて居りました學ばずとも立木などを相手に劍術の真似などをして楽しんで居る、或る日の事母子晝飯を飯べて居りました

み「大きに御苦勞様、水があまりましたか」
百「瀧れて居ましたから井の瀬助さんを頼んで水を汲んで貰つて夫からチャント御石塔へ水をかけお花を供へて参りました」
み「マア宜しく心附きました子供ながら然ういふ志なれば草葉の蔭にお在なざる御父様も定めてお喜びでありませう」

「アノ阿母さん此の間から聞かうと思つて居りましたがお父さんが歿くなつた時はまだ私は小さかつたのでどうして歿くなつたのか能く覺えて居りませんが何うか其事を聞かせて下さいまし」
と子供にも似げなき百太郎に不意を打たれたおみちはビツクリ暫らく顔を見詰めて居りました

いふのではないがツイ今日世帯の事を取紛れ墓参をするが遅れました、そんなればお前御飯がすんだらお花を手向けて来て下さい」
百「ハイ長まりました」
と食事をつまみながら百太郎は巖空寺の墓地へ参り花を手向けて歸つて参り

百「阿母さん行つて参りました」
「ナニお父様のハテどういふ夢を見たのか聞かして下さい」
百「それはお父様が私に向つてどうぞ敵討ちをして呉れと斯う仰しやつたから敵といふのは唯ですと云つても其お答がありません、それから阿母さんにお尋ね申

した」

「それでは連合源十郎殿は女ゆゑに妾一人を心置きなく思召し血を分けたる我子の事でお前にさういふ事を夢にお知らせあつたに相違ない、今日こそ隠さずお話しませう」

花柳病科 外科 門專 院醫科外村木

平町五丁目丁橋際 自炊入院の便あり 電話三九〇

美味で！ 評判の...
イワキ サロン
電 352

父易興儀豫て病氣の處養生不相叶六日午後十時四十五分永眠致候間御通知に代へ此段謹告仕候
追て葬儀は来る十日午後二時自邸出棺良善寺に於て佛式相替み可申尙遺志により供花放鳥等御辭退申上候
九月七日
平町四丁目
嗣子 百澤才八郎
親戚總代 加藤丈夫

弊社々々長百澤易興儀豫て病氣中の處藥石効無く六日午後十時四十五分永眠致候間此段謹告候也
平町四丁目
株式會社 百澤商店

男女安全豫防藥 新發賣 志のぶ錠
しのだ錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇の外コシケ、子宮、内膜炎、腫加答兒並に婦人〇部の癢痒等の治療の目的に用ひられる事でも即ち〇〇〇の豫防と治療の二重奏をなします
專賣所 阿康藥舖
平古鍛冶町(電話四四番)
妊娠を望む方は使用すべからず

市原醫院
平町田町(電話二一四番)
内科 小兒科 市原卯太郎
外科 一般、婦人科 市原陸郎
外科 梅毒、淋病 市原三三男
入院隨時